

科目名称:	ファイナンシャルプランニング演習Ⅰ	
担当者名:	高橋 昌子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
一人ひとりの夢や目標、ライフプランをかなえるためには、マネープラン＝ファイナンシャルプランニング（FP）が必要です。ファイナンシャルプランニング演習Ⅰでは、生活に関するお金の知識として、住宅資金・教育資金や社会保障、保険、金融について幅広く学び、課題から修得した知識がどのように活用できるのかを学修します。FPを勉強することは、生活に必要なお金の知識を学ぶことです。それは、社会を知ることにもつながり、自分自身の人生の夢や目標を考えることにもつながります。		
授業の達成目標・到達目標		
この講座は、1年後期（ファイナンシャルプランニング演習Ⅰ）、2年前期（演習Ⅱ）、2年後期（演習Ⅲ）それぞれ週1講義（90分）計45回で授業を実施します。ファイナンシャルプランニング演習Ⅰ・Ⅱは、ファイナンシャルプランニングの基礎知識を学び、演習Ⅲでは、受験対策として過去問題による演習を行います。講座の最終目標は、これから社会人のなる女性が知っておくべきお金の知識を修得すること、そして2年後期の演習Ⅲでは、授業期間中の1月に行われる3級FP技能士の検定試験を受験し、資格取得を目指します。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)		70		30	100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 ファイナンシャルプランナー	《経験年数1》 24年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ライフプランニング①	ライフプラン・ファイナンシャルプランニングの手法	30分
第2回 ライフプランニング②	住宅資金・教育資金とローン	30分
第3回 リタイアメントプランニング①	健康保険・介護保険について	30分
第4回 リタイアメントプランニング②	公的年金について	30分
第5回 リタイアメントプランニング③	給与明細書の見方について	30分
第6回 リスクと保険①(生命保険)	生命保険のしくみと遺族年金・障害年金	30分
第7回 リスクと保険②(生命保険)	保険証券の見方について	30分
第8回 リスクと保険③(損害保険)	損害保険のしくみと火災保険・地震保険	30分
第9回 リスクと保険④(損害保険)	自動車保険と保険証券の見方について	30分
第10回 金融と経済の基礎知識	経済指標と金融政策・財政政策について	30分
第11回 貯蓄と投資の違い	リスク・リターンとは何か、リスクと賢くつき合う方法について	30分
第12回 貯蓄商品と金利計算	金利とは何か、金利の種類、預貯金について	30分
第13回 投資商品と為替について	株式、債券、投資信託と為替のリスクについて	30分
第14回 具体的なファイナンシャルプランを考える① (提案書を基にグループワーク)	課題に対して、具体的なファイナンシャルプランについて考え、提案書を作成する	60分
第15回 具体的なファイナンシャルプランを考える② (提案書を基にグループディスカッション)	課題に対して、具体的なファイナンシャルプランについて考え、提案書を作成する	60分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、各回の予習を小レポートにまとめておくこと。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 確認小テスト 70%、授業への貢献・積極的関与 30%。		
課題に対するフィードバック		
授業内確認テスト、課題レポートは、採点・評価し返却する。		
教科書・参考書		
教科書： F Pの教科書3級 参考書： F Pの問題集3級、資料配布		